



五
半島
おき
大王
統一
して
大
築か
大王
集ま

百舌鳥古墳
石原正

古墳時代の堺

御陵全景



仁徳天皇百舌鳥耳原中陵

わが国の前方後円墳として最も大きいのが仁徳天皇陵です。

墳丘の全長は480m, 前方部の幅305m, 後円部の直径245m, 周濠を含めた東西の長さ656m, 南北の長さ793m, 周囲は2,718m, 面積464,124㎡となっていて、その大きなことから大仙陵だいせんと呼ばれています。正式には、百舌鳥耳原中陵すみはらなかのみささぎと言います。

日本書紀によると、仁徳天皇67年の冬10月5日に、河内の石津原（堺市石津町～中百舌鳥町一帯）に行幸して陵地を定め、同月18日から工事を始めました。

この時、鹿が野の中から走り出て、工事に従事している人々の中に走り入って、にわかには倒れました。人々があやしんで調べてみると、その耳の中から百舌鳥が飛び去り、鹿の耳の中が喰いさかれていましたので、ここを百舌鳥耳原と名づけたと記されています。

仁徳天皇は、それから20年後の87年の春正月16日になくなり、同年の冬10月7日に百舌鳥野に葬られました。（古事記には毛受耳原陵もずと書かれています。）

3段に築造した前方後円墳で両側に造り出しをもち、その墳丘をめぐって3重の周濠がつくられ、その外側に12の陪冢ばいちょうがつくられています。墳丘に、周濠となっている所から土を運んだと考えると、毎日1000人が働いて4年かかると計算されています。そのうえに、墳丘に並べる葺石の運搬、20,000個以上の埴輪の製作と運搬、中堤の築造、陪冢の造営などを加えると、莫大な労力がついやされたものと思われる。

徳川時代の中頃までは、陵墓の管理が充分に行われていませんでしたが、嘉永5年（1852）、ときの堺奉行川村修就はこれを憂いて、後円部上にあった勤番所を裏門に移し、天皇を葬ったと思われる後円部200坪に高さ3尺の石の柵を設けて、陵内を整備したと伝えられています。

明治5年9月、前方部正面の第2段のやや上がくずれ、立派な石積の竪穴式石室せきしつが発見されました。長持型石棺せきというすばらしい石棺と、石室面のあいだから金銅製の甲冑・刀剣の断片20・ガラスの椀などが見つけられましたが、もとの通り埋めたといわれています。この石棺と甲冑を精密に写した図が残っていますので、相当具体的に知ることができます。

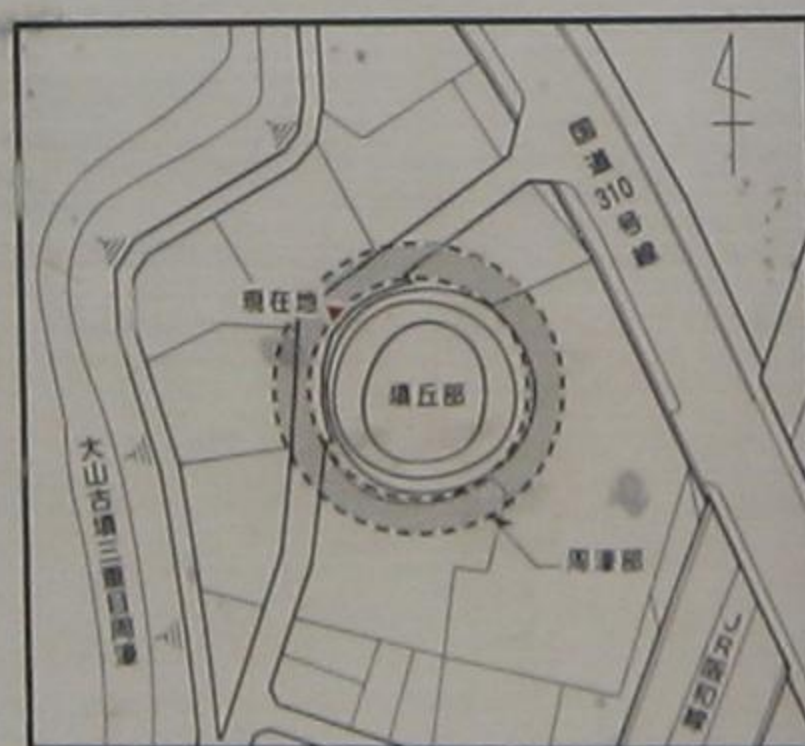
源右衛門山古墳

Gen-emonyama Tumulus

この古墳は、大山古墳（仁徳天皇陵）の北東約30mに位置する直径約40m・高さ約5mの円墳です。

古墳内部の構造や埋葬品などはわかっていませんが、平成2年に下水道工事に先行して行われた発掘調査では、濠の一部と埴輪が発見され、もとは周囲に幅約5m、道路面からの深さ約1.8mの濠を巡らせていたことが確認されました。見つかった埴輪の作り方などから大山古墳とほぼ同時期の5世紀中頃の築造と考えられています。

大山古墳にはたくさんの中小規模の古墳がまわりを取り囲むように築かれています。この古墳も、三重目の周濠に近接していることや築造時期が近いことなど



周濠推定図

から、竜佐山古墳・孫太夫古墳・鏡塚古墳・塚廻古墳などと同様、大山古墳と密接な関係があったといわれています。

周濠の外まわりについては、道路の舗装面にブロックの組み合わせを変えて表示してあります。

平成9年3月
堺市教育委員会







売家

通行止
通行止
通行止

通行止
通行止
通行止



行進
隊の
51st
1944-1945
51st



危険
お子様は
立入禁止

何徳御陵前キターマール
※無断駐車は警察へ連絡の上
3万円頂きます。
※犬をつれての立入禁止！
ビニール袋を持たずに犬を
散歩させてるあなたのことです。
251-4597 (住吉)









仁徳天皇

百舌鳥耳原中陵

一みだりに域内に立ち入らぬこと

一魚鳥砦寺を取らぬこと

一竹木竹等を切らぬこと

宮内庁



